

第2部 近代化と私たち

第1章. 江戸時代の日本と結び付く世界

① アジアの中の江戸幕府

<日本を取り巻くアジアの情勢>

- ▶ 16世紀の西アジア…… 帝国 (トルコ人イスラム国家) 中国…… (1368-1644)



- ▶ スペイン、ポルトガルによる「大航海」
オスマン帝国経由でしか入手できなかった を直接入手したかった
ポルトガル……インド航路発見→インドネシアの香辛料貿易独占
→日本との南蛮貿易で銀を大量に入手 (石見銀山)

スペイン……コロンブスによるアメリカ大陸到達
→中南米を植民地化、銀を大量に採掘・入手

ポルトガルの日本銀、スペインのメキシコ銀が、明やその他東アジア諸国で流通
両国とも中国から生糸・絹織物・陶磁器などを大量に輸入

- ▶ 王国 (1429年建国)……明の冊封を受けて朝貢貿易
中国と東南アジア・日本を結ぶ中継貿易で栄える

※ 体制 ……中国の皇帝と周辺諸国の王が主従関係を結ぶこと
 貿易 ……周辺諸国の王が、中国皇帝に貢ぎ物を献上し、
中国皇帝から大量の返礼品を受け取る、という貿易
ex.足利義満が明と行った勘合貿易

<江戸幕府の成立>

- ▶ 1603年 成立
全国を、幕府の直轄地と、諸大名の領地(藩)に分けて統治 = 体制
17世紀半、武断政治から文治政治への転換

武士……支配者階級 職人・商人……町人 (貨幣で納税)
農民……幕府・藩に対して年貢米を納入

<江戸幕府と世界のつながり>

- ▶ 「 」 ……とされているが、「4つの窓口」があった。
 - ①. ……オランダ、中国 (清) 出島、唐人屋敷において管理貿易
 - ②. ……朝鮮 朝鮮通信使と幕府との国交を仲介
 - ③. ……琉球 1609年、薩摩藩が武力で琉球侵攻、監督下に置く
琉球を通じて中国・東南アジアと交易
 - ④. …… (蝦夷地 = 北海道の先住民族)
アイヌは中国沿海州 (現ロシア領) の「山丹人」と交易していた
1669年、シャクシャインの戦を鎮圧し、幕府がアイヌを従属させる
18世紀以後、長崎・琉球での貿易輸出品である俵物 (海産物) を生産

② 成熟する江戸社会

<農村の発達と商品生産>

- ▶ 新田開発、治水工事 ……米の生産増大
- ▶ 18世紀以降、商品作物の生産も盛んに → 手工業の原材料（綿花、紅花）
- ▶ 問屋制家内工業…商人が原料・道具を農民等に貸し付けて生産させ、製品を買い取り販売する。
→各地で**特産品**が生まれる。諸大名もこれを奨励。

<日本各地の結び付き>

- ▶ _____ ……「将軍のお膝元」、人口100万超
150万程度という説が一般的か？（武士100万、町人50万）
- ▶ _____ ……「天下の台所」、各藩の蔵屋敷があった。
- ▶ 水上交通の発展 …… 東廻り航路（酒田～津軽海峡～太平洋岸南下～江戸）
西廻り航路（酒田～日本海～関門海峡～大坂）
菱垣回船・樽廻船（江戸・大坂間）
- ▶ 五街道 …… 東海道（江戸～箱根～桑名～京）
中山道（江戸～碓氷峠～諏訪～関ヶ原～京）
甲州道中（江戸～甲府～諏訪）
日光道中（江戸～宇都宮～日光）、奥州道中（江戸～宇都宮～白河）

<教育と学問の発達>

- ▶ 農村の自治…**村請制度**（年貢等を村全体の責任で請け負う）、**村掟**（規則）
→農民であってもある程度の読み書き・計算能力が必要
- ▶ 庶民教育 …… _____
- ▶ _____ ……武士の道徳・政治思想 主君への忠誠 etc.
- ▶ _____ ……儒学・仏教などの外来思想を排し、日本古来の思想・価値観を研究

※「**尊皇攘夷**」…“王を尊び異民族を撃退しよう” = **儒学**の政治思想の根幹
よってこれを徹底すると、「幕府は天皇を軽視している」という批判にもなる

国学からも、古来の天皇中心の政治への復帰を望む**尊皇思想**へ

- ▶ **心学** ……石田梅岩 商人の道徳（正直・儉約）
- ▶ _____ ……8代将軍徳川吉宗が、キリスト教以外の漢訳洋書輸入を緩和
→実用の学問として、特に**医学**を中心にオランダ語による学問がさかんに

③ 清の繁栄と結び付く東アジア

<清の成立と政治体制>

- ▶ _____ (1616/44-1912)

1616年 中国東北地方に満州族が建国。→朝鮮王国を属国とする。

1644年 明の滅亡と同時に中国本土に侵攻・支配下に。

_____ (1661-1722) ……中国支配確立。1689年、ネルチンスク条約でロシアとの国境画定。

_____ (1735-95) ……チベット、新疆(東トルキスタン)も支配。中国史上最大領土となる。

※ 異民族が中国を支配する**征服王朝**でありながら、**科挙**によって中国人官僚を採用。
チベット・モンゴル・トルコ人らにも自治を認め「**藩部**」として間接統治。

<清の経済発展>

- ▶ 清の貿易政策の変遷

建国直後は「**海禁政策**」……明の残存勢力で台湾に本拠を置く鄭氏(鄭成功)への対抗策

↓

1683年、康熙帝が鄭氏を滅ぼし台湾支配

↓

貿易解放……互市貿易

広州、厦門、寧波、上海に海関(貿易管理機関)を設置し

この4港で民間海外貿易公認

⇕

1757年、乾隆帝が海外貿易を_____ 1港に限定、**公行**(特権商人組合)に独占させる
イギリスとの茶貿易急増

- ▶ 生糸、絹製品、綿製品、陶磁器、茶などを輸出 → 貿易黒字で大量の**銀**が中国に流入
- ▶ 南北を結ぶ大運河(隋の時代に建設されその後も繰り返し整備)……交通・商業が活性化

<アジア諸国との結び付き>

- ▶ 清の輸入品……米(東南アジア)、綿花・砂糖(インド)

日本からは銅・海産物(=俵物……干しアワビ、フカヒレなど)

- ▶ 伝統的な冊封関係(朝貢)も継続

清の属国……朝鮮、ヴェトナム、シャム(タイ)、ビルマ(ミャンマー)

- ▶ 東南アジアへ移住した中国人(_____)のネットワークが形成される

↑

清朝の人口約3億……中国人の生活圏拡大の動き

④ アジア・アメリカに向かうヨーロッパ

<イスラーム帝国の繁栄>

- ▶ 16-17世紀、巨大イスラーム王朝の繁栄
オスマン帝国(トルコ)、サファヴィ朝(イラン)、ムガル帝国(インド)
- ▶ オスマン帝国……バルカン半島、小アジア(現トルコ)、地中海東岸、アラビア半島、イラク
エジプトから北アフリカまで支配
皇帝(スルタン) = メッカ・メディナ二聖都の守護者 → 巡礼者の安全確保を重視
全盛期スレイマン1世(1520-66)
ウィーン包囲(1526)……神聖ローマ帝国に軍事的圧力をかける
_____ ……フランス、イギリス、オランダなどへの恩恵の特権授与
→ ヨーロッパ諸国への領事裁判権承認、低関税の協定
オスマン帝国とヨーロッパの力関係が逆転すると不平等条約になる
- ▶ インド洋 = “ムスリムの海”、ダウ船(三角帆の小型帆船)
アフリカ東海岸、インド、東南アジアを結ぶ季節風貿易

<ヨーロッパのアジア交易参入>

- ▶ 16世紀、ポルトガル・スペインがインド洋に
ポルトガル……ゴア(インド)、マカオ(中国)を拠点
1543年、種子島漂着(鉄砲伝来)以後、日本と南蛮貿易で利益
→ 石見銀山の銀がポルトガル人によって広くアジアに流通
スペイン ……マニラ(フィリピン)を拠点
南米で採掘した銀を、メキシコのアカプルコ経由でマニラへ
= ガレオン船貿易(アカプルコ貿易)
- ▶ 17世紀、オランダ・イギリスの参入
※ _____ ……ヨーロッパ諸国が設立した、アジア貿易独占権を与えられた特許会社
1600年(関ヶ原合戦の半年前)、オランダ船リーフデ号が豊後に漂着
ヤン・ヨーステン(蘭)、ウィリアム・アダムス(英)が徳川家康に仕える
オランダ……バタヴィア(ジャワ島)に拠点
インドネシアの香辛料貿易支配権を奪う
イギリス……インドネシアに割り込みを図るが、オランダに敗北(アンボイナ事件)
→ 日本から撤退し、インド支配に集中

<アメリカ大陸と大西洋三角貿易>

- ▶ スペイン……1545年、ポトシ銀山(南米ボリビア)発見
先住民を奴隷として酷使 → のち黒人奴隷を輸入
※ アメリカ先住民の社会破壊・人口減少を補うために黒人奴隷貿易が始まった。
- ▶ 大西洋三角貿易
ポルトガル(リスボン)・イギリス(リヴァプール)・フランスの奴隷商人
武器・日用品と引き替えに、アフリカ大陸西岸から黒人奴隷を南北アメリカに輸出
↓
アメリカ大陸植民地……黒人奴隷を使役したプランテーション
砂糖、たばこ、コーヒーなどを栽培しヨーロッパへ